

戦争について学ぶこと

読谷中学校三年 又吉 花音

去年九月、沖縄県内に住む少年達が読谷村

波平にある千ピチリがマの中を荒らした事件

をみなさんはおぼえていますか。私はこの

事件をインタビューしたのを覚えています。と

てもシヨツクを受けたのを覚えています。私

は、学校の平和学習で二度千ピチリがマへ行

ったことがあります。遺族の方の証言をきい

たり、いくつかの資料を読んだりしていく中

で、私たちの日常とは、かけはなれた多くのこ

とが戦争中には日常的に起きていたことを知

り、衝撃をうけました。その中でも、「国の為

に死ぬ」という教育がされていったこと、また

それを信じて自決した人もたくさんいたとい

うことにシヨツクを受けました。このようにな

話を聞いた多くの人は、「戦争はいけな

となんだ」と思うと思います。沖縄県は日本

国内で唯一、地上戦があった、たくさんの人

が亡くなりました。赤ちゃんからお年寄りま

ことだと思ひます。戦跡へ行くのはこわい
 学が場に行ったりする人がいなくな
 ニつ日は戦跡へ行ったり、戦争につ
 ことを学がべきだと思ひます。
 の方々から話を聞くなどして、もつと戦争の
 います。そうならないために、今、体験者
 で戦争があつたという事実は風化されてしま
 も出ています。しかし、このままだと、沖繩
 合は、沖繩県の全人口の約一割というデー
 ありません。現在、沖繩戦を体験した人の割
 いるから、体験者が減つてしまつのはしかた
 ことだと思ひます。終戦から七十三年経つて
 つ目は、戦争を体験した人が年々減つて
 私には、その原因は二つあると思ひます。一
 のでしょ。うか。
 あのような、してはいけな事件を起こした
 す。それなのになぜ、県内に住む少年達は、
 毎年慰霊の日が近づくと、平和学習を行いま
 ました。そのこともあり、沖繩県の学校では
 で、約12万人もの罪のない人達が命を落と

400

300

200

100

20

いう意見もあると思います。しかし、一見にしかず、ということがあるように、その場に行くと、その空気を感ずることに大切なことがあると思います。行かないこともあります。私自身、小学六年生の頃、はいじめで壕へ行くまで、こわいな、いやだな、と思っ、ていました。しかし、その壕の中に入ると、だんだん、みんなに、ジュ、ジュ、ジュ、と、暗いところにくさんの人がいたこと、を考るとおそろしい。戦争は二度と起こしてはいけないこと、という考え方に変わりました。だから、実際に戦跡へ行くことは、とても大切なことだ、と思うのです。もし、千代チリがマを荒らした少年達も、と深く戦争について学んでいたら、そのよな環境を周りの大人が、つくる、ていたら、このよな事件は起こらなかつたのだ、はないか、と私は思います。その少年達は、今、千代チリがマについて勉強し、千代チリがマの遺族

400

300

200

100

20

会会長の興那覇徳雄さんや彫刻家の金城実

さんらと共にがマ周辺に仏像をつくったと聞

きました。その中の一人の少年は、つちどち

りがマのことを、みんなに知らせることをし

たいと遺族の方達に語ったろうです。

これから、戦争について、学び、将来自分の

子供や孫へ伝えたいければ、平和な世界になる

と思います。私も、戦争中に五才だった祖父

に戦争のときの話や、戦後の沖縄ほどのよう

に復興していったのか聞いたり、沖縄が今ハ

直面している米軍基地の問題などについても

学んだいのです。戦争は悲惨な出来事で目を瞑

りたいことや耳をふさぎたいこともたくさん

あります。しかし、自分が生まれ育ったきた

大好きな沖縄で昔、実際にあったことをし

かり学んでいきたいです。

300

200

100

400

20

4

400